

「最後の授業」～明日は第51回卒業式～



温かい春を思わせる陽気です。

今日も朝の校庭はいつものように子どもたちの歓声が絶えることはありません。少し前まで遊びの主流は長縄などの縄跳びでしたが、最近はドッジビーやドッジボール、どんぐり山周辺での鬼ごっこなどに変わってきたようです。それにしても、朝から校庭の賑やかなこと、県内どこを探してもこんなに子どもたちが朝から夢中で友達と遊んでいる学校はないと思います。

明日、卒業式を迎える6年生も小学校生活最後の朝の遊びを堪能していました。

また、1年生の校庭を覗いてみると砂場で何か夢中になって作っています。何をしているのか聞いたところ「ケーキ屋さん」なのだそうです。朝から立派な生活科です。

体育着に着替えているのでこれならいくら汚れても大丈夫です。

いよいよ明日、卒業式です。学校にはたくさんの行事がありますが、校長先生にとって最も大切にしたい行事です。ところで先日「第51回」という回数が副校長3人で話題になりました。実は、特別支援学校、附属中も今年度が「第51回」。調べてみると、東北大学から宮城教育大学に移管された昭和42年度から数えての51回とのことでした。

6年生の廊下には写真のような「決めるのは自分」の言葉とともに一人一人の写真がどんぐりの装飾とともに見事に掲示されていました。先週「予行練習」も無事終了しています。いつ本番でも大丈夫な6年生の子どもたちです。どうか全員

元気な姿で明日の卒業式を迎えて欲しいところです。

視覚支援学校、特別支援学校、附属中学校、附属幼稚園と卒業式に参加させていただき、どの学校でも本当に卒業式が特別の1日であることを改めて感じました。そして、何より大切なのは、卒業式に参加する子どもたちの気持ちを当日までしっかりと育てていくことだと思いました。言い換えれば「心を育てる」です。

先ほど「校舎巡り」に立会い、職員室にも6年生が挨拶に来てくれました。1度だけでも授業をした間柄なので、一人一人の顔を見ていると、明日の卒業式の成功を祈る反面、この子たちがいなくなったら、本当に寂しくなることを実感しました。そして、6年生には、1年間しっかり子どもたちを支えてきた淳先生、佐山先生、大地先生、剛志先生、大久保先生がいました。6年生の担任でなければ分からない苦労もたくさんあったことと思います。

附属小では伝統的に卒業式は「最後の授業」と言われています。この意味するところは何でしょうか。授業成立の要件は子どもと教材を私たち教師がしっかり向き合わせることです。明日は附属小の一員として式に参加し、なぜ「最後の授業」と呼ばれているのか、その原点について先生方と一緒に考えてみたいと思います。

(文責：副校長 手代木)